

伊東洋三先生 ご定年退職に寄せて

二期にわたって本学部の学部長を務められ、文字通り中心的存在であった伊東洋三先生がご定年を迎えられ、今年度末に退職なされます。伊東洋三先生は一橋大学大学院経済学研究科を修了なさった後、東京工業大学を経て本学に講師として3年、助教授として7年、教授として33年、計43年間という長きにわたって在職されています。経営学部にも所属されていましたが、ネットワーク情報学部創設とともに移られて、経済のモデル（マクロ経済学）、経済のモデル（ミクロ経済学）、ゲームの理論、モデル分析、人間行動のモデル1など多くの科目をご担当いただきました。（ご負担だったことと思いますが、経営学研究科でも経営統計学をずっと持たれていました）伊東洋三先生は、計量経済モデルを扱うなど経済学の立場からの計算機ユーザであり、電子計算機学術利用委員会委員長や情報科学センター運営委員や情報科学研究所長を歴任されるなど、本学部に移られる以前から情報処理教育にご尽力されてきました。それ以外でも、経営研究所長や教養教務委員や資格審査委員など数多くの要職を務められてきました。本学部に移られてからは、社会科学的素養に乏しく視野の限られる傾向を否めない本学部学生に対して、ゲームの理論や経済のモデルを通じて社会的なものの考え方を伝えるなど学部になくしてはならない存在としてご活躍されていることは周知のとおりです。今、伊東洋三先生がいなくなることは学部にとって失うものが大きすぎる感があります。伊東洋三先生のご専門はゲームの理論を通じて社会や制度の経済的側面を分析することにあります。今日では組織や制度も経済学の方法で分析することは当たり前のこととなっていますが、伊東先生は40年も前から公共経済学的手法で高速道路問題や地域間競争問題に取り組んでいらっしゃいます。ネットワークやクラウドの問題を公共財の問題として考察してほしいと思うのは小生だけではないと思います。本学部での教育研究では、これからも伊東洋三先生にご指導いただくことは少なくなさそうに思われます。小生は伊東洋三先生が学部長をなさっていた4年間、教務委員長でした。就任直前に行われたカリキュラム改革（4コース制から8プログラム制への比較的大きな変更でした）を責任もってやり遂げるよという意図と拝察いたしました。プロジェクトへのフリーライダー問題は未解決のままですが、改革の柱であった2年次演習では皆真剣に取り組むようになり、4年次演習でも履修者が増加し、伊東先生が「改革の意図の実現はともかく、学生がより勉強するようになった」と評されたことが思い起こされます。さまざまな外圧をすべてお引き受けくださって、教務委員会が改革に専念できたことは一同感謝の念に堪えません。来年度からの新カリキュラムも伊東先生の指示のもとで検討が開始された経緯があります。そう、本学部14年のうち4年間学部長をなさっていたのですから当然と言えば当然ですが、ネットワーク情報学部のあり方自体も伊東先生のおかげであるところが大きいと思います。伊東先生、本当に長い間ありがとうございました。そしてご退職後もさまざまな面でご助言くださいますようお願い申し上げます。